



切り絵『午』 比企善彦 作



茨木神社社報

発行所

茨木神社社務所  
茨木市元町4-3  
072(622)2346  
<https://www.ibarakijinja.or.jp/>

## 「いのちと、いのちの、あいだに」

このタイトルは、昨年開催された大阪・関西万博における日本館の主題です。このテーマには私達は、他者と自分、人と自然など、様々ないのちといのちの「あいだ」に生きて、いる存在であることを見つめ直すという意図が込められています。

伊勢の神宮式年遷宮は、昨年五月の山口祭・木本祭に続き、六月三日には御神体をお納めする御樋代（みひしろ）の御用材である「御樋代木」を杣夫が斧で切り出す「御杣始祭（みそまはじめさい）」が斎行されました。その際、伐り出されたヒノキの切株に杣夫がその木の梢を差し立てる「鳥總立（とぶさたて）」が行われます。これは木の本末をお戻しし、幹を頂戴して使わせていただくことへの感謝を山の神に伝えるものです（二二頁写真参照）。

この儀式はまさしく、切株という「いのち」と、梢という「いのち」の、「あいだ」である幹を使わせていただいている感謝を示すものです。私達も、他者と自分、人と自然、祖先と子孫など、様々な「いのちと、いのちの、あいだ」に生かしていただいている。関西万博日本館の主題や神宮式年遷宮の神事を通じて、改めてその恩恵に感謝する機会としたいものです。

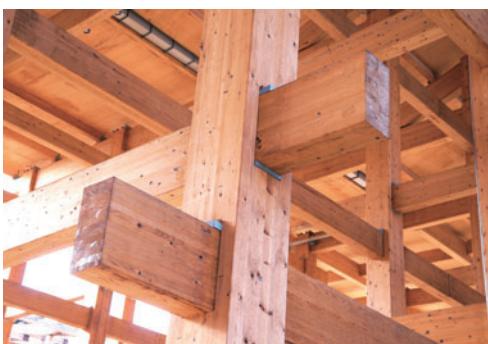
## 大阪・関西万博と神社 ～「木の文化」の日本～

四月十三日より十月十三日までの百八十四日間、大阪夢洲を舞台に大阪・関西万博が開催されました。二千五百万人を越える来場者を記録するなど盛況であった中、特に話題を集めたのが、万博会場を囲む2キロメートルの「大屋根リング」でした。世界最大の木造建築物としてギネス記録に認定された巨大建築であり、柱と梁の接合には、日本の伝統的な構法「貫接合」が採用されるなど、万博のシンボルともいえる建物でした。



大阪・関西万博「大屋根リング」

「大屋根リング」にも象徴されるように、日本は「木の文化」を持つ国です。木は視覚的に優しさを感じることができ、触覚的にも温かさを与えてくれます。この大屋根リングの柱の木もまるで部屋の区切りのような役割を果たし、多くの人が柱の周りで休憩されていました。



「大屋根リング」で用いられた貫接合

また、本万博を代表するパビリオンの一つである日本館では、木造が持つ持続可能性をテーマとした展示の中に、伊勢の神宮式年遷宮の展示もありました。二十年に一度全ての社殿を新しく建て替える式年遷宮は、山の神々に木の伐採を乞い願う山口祭から、伐採後の木に対して「本(もと)と末(す



日本館

え)」に対して行う祭である「鳥締立(とぶさたて)」、そして種取りをした上で後世の遷宮へ向けての植樹。日本が千三百年前から続けてきた「いのちの循環」そのものが式年遷宮であるという内容でした。



鳥締立(とぶさたて)



南宮大社でのご解説の様子

ご解説いただきました。

まず不破郡垂井町に鎮座する美濃国一之宮である南宮大社に正式参拝しました。そして櫛宜の荒井様にご由緒や社殿建築等について

今年は、朝は冷えましたが日中は穏やかな秋晴れの下、五十二名の参加者が三台のバスで岐阜県に向かいました。

十一月十九日、恒例の奉賛会バスツアーが開催されました。これは毎年十一月、近畿近郊の神社を正式参拝すると共に、その近くの名所を観光するもので、毎回多くの奉賛会員様にご参加いただいております。

## 奉賛会バスツアー報告

その後、関ヶ原町にて昼食をとり、岐阜関ヶ原古戦場記念館を見学しました。まず巨大な床面スクランで全国を舞台とした東西陣営の戦いを俯瞰し、次にシアターにて、あたかも合戦当日の関ヶ原に紛れ込んだかのようナリアルな映像を楽しみました。



岐阜関ヶ原古戦場記念館

社伝によると、金山彦大神は初代神武天皇東征の際、八咫烏（やたがらす）を輔（たす）けて大いにお力を頸わし不破郡（ふわぐん）府中（ふちゅう）の地にお祀りさせることとなりました。後に第十一代崇神天皇の御代に現在の地に鎮座なされます。古くは「仲山金山彦神社」と称されましたが、国府から南方に位置するため南宮大社と云われる様になつたと伝えられています。

現在の建物は、慶長五（一六〇〇）年の関ヶ原合戦の兵火によって焼失したものを、寛永十九（一六四二）年、春日局の願いにより三代将軍

から鉄鉱・鉱山にまつわる神として人々の崇敬を集めようになつたといわれており、現在でも南宮大社は金属製錬の總本宮として全国の金属業・鉄鉱業・鍛冶の方々から厚い信仰を集めています。

耶那美命（いざなみのみこと）が火之迦具土神（ひのかぐつちのかみ）をお生みになられた際にお生まれになられた姿が、流鉄に似ていたことから鉄鉱・鉱山にまつわる神として人々の崇敬を集めようになつたといわれており、現在でも南宮大社は金属製錬の總本宮として全国の金属業・鉄鉱業・鍛冶の方々から厚い信仰を集めています。

■金山彦大神と茨木神社

南宮大社のご祭神「金山彦大神」は、茨木神社の末社「事平（ことひら）神社」にも「金山彦命（かなやまひこのみこと）」としてお祀りされております。かつては旧主原村の金御嶽神社（現御旅所）に祀られておりましたが、明治四十一（一九〇八）年金御嶽神社を廃し当神社の事平神社に合祀されました。

南宮大社は古く神話の時代、伊耶那美命（いざなみのみこと）が火之迦具土神（ひのかぐつちのかみ）をお生みになられた際にお生まれになられた姿が、流鉄に似ていたことから鉄鉱・鉱山にまつわる神として人々の崇敬を集めようになつたといわれており、現在でも南宮大社は金属製錬の總本宮として全国の金属業・鉄鉱業・鍛冶の方々から厚い信仰を集めています。



南宮大社

### 黒井の清水大茶会

十月四日、黒井の清水大茶会（主催：茨木市観光協会）が神社境内にて開催されました。午前九時から本殿にて奉茶式が斎行され、お抹茶とお菓子が御神前に供えられました。

当日は雨天のため、儀式殿一階和室を会場に実施され、多くの方々が野点を楽しんでおられました。

境内には茨木の物産販売やお楽しみ抽選会が行われ、また境内休憩所に設けられた舞台では茨木神社雅楽会による雅楽の演奏が行われるなど、多くの来場者の耳を楽しませました。



末社 事平神社

【配祀】  
金山彦大神  
(かなやまひこのおおかみ)  
彦火火出見尊  
(ひこほほでのみこと)  
見野命  
(みののみこと)

（第69号）

徳川家光公が再建したものです。以後も歴代将軍の崇敬篤く、現在も地元のみならず遠方から多くの方々が参拝者が訪れます。

毎年神社の境内では、伊勢の神宮でのみ栽培され、「イセヒカリ」と名付けられた稻を、少しですがお頒かちいただき苗から育てています。今年も夏の暑さと度重なる風雨にも耐え順調に生育して、実りの秋を迎えました。神様の御蔭み・お蔭でできた米なので「御蔭米」と名付けて、恒例の抜穂祭を十月二十六日に斎行し、十一月二十三日の新嘗祭に御神前にお供えいたしました。

## 抜穂祭



黒井の清水大茶会



● 令和八年新年御朱印を頒布いたします。新年にふさわしく、美しい花々に囲まれながら未来を見据える午を中心制作しました。初詣にご参拝の際にぜひお受け下さい。

## 御朱印について



抜穂祭

## 今後の神事について

たします。正月飾りは当日正午までお持ちいただきますようお願ひいたします。

### ◇初詣

例年、正月三ヶ日は多くの参拝の方々で賑わいます。そして皆様には何かとご不便をお掛けしますが、案内掲示や係員の指示にご協力いただきますようお願いします。

### ◆歳旦祭

十二月三十一日  
一月一日午前十時斎行

### ◆越年祭

十二月三十一日

### ◆十日戎祭

一月九日～十一日

### ◆御火焚（とんど）

一月十五日

### ◆祈祷木奉焼祭

二月一日

### ◆初午祭

二月三日

### ◆節分祭・鎮魂星祭

二月十一日

### ◆紀元祭

二月十一日

### ◆人形奉焼祭

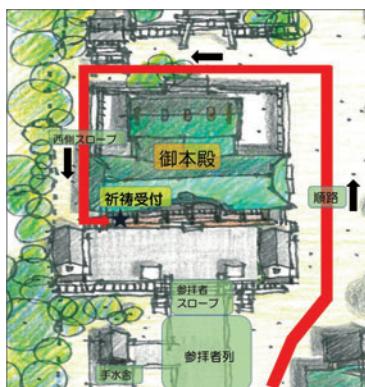
四月八日

### ◆春祭（新年祭）

奉贊会危除安全祈願祭  
四月十八日

### ◆大祓・茅の輪くぐり神事

(初穂料は五百円です。数に限りがございますので、準備枚数が無くなり次第終了とさせていただきました。)



### ◇十日戎

今年も例年通り一月九日～十一日の三日間斎行されます。

### ◇御火焚（とんど）

一月十五日の午前中に斎行い